

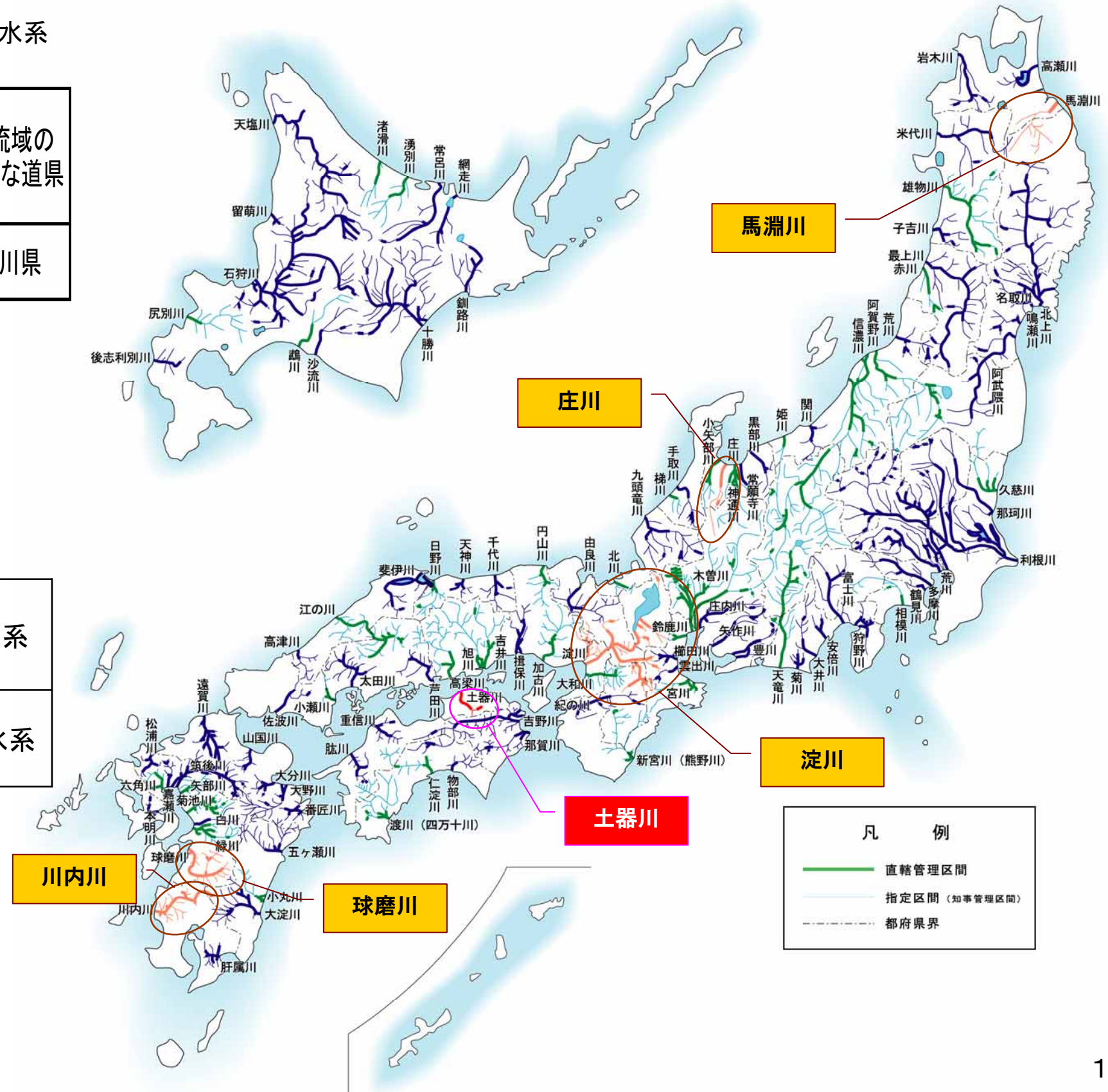
# 今後の河川整備基本方針の策定について

資料3

新たに基本方針検討小委員会で審議を開始する水系

| 水系名 | 流域面積 (km <sup>2</sup> ) | 幹川流路延長 (km) | 流域内人口 (千人) | 想定氾濫区域内人口 (千人) | 流域の主な道県 |
|-----|-------------------------|-------------|------------|----------------|---------|
| 土器川 | 127                     | 33          | 35         | 103            | 香川県     |

|  |  |      |
|--|--|------|
|  | 基本方針検討小委員会で審議中の水系<br>なお、球磨川、馬淵川、庄川は小委員会で審議済み | 5水系  |
|  | 河川整備基本方針策定済み水系                               | 67水系 |





# 土器川水系

## 流域及び氾濫域の諸元

流域面積 : 126.9km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 33km  
 流域内人口 : 約3.5万人  
 主な市町村 : 丸亀市、まんのう町  
 想定氾濫区域面積 : 約61.4km<sup>2</sup>  
 想定氾濫区域内人口 : 約10.3万人  
 想定氾濫区域内資産額 : 約14,300億円

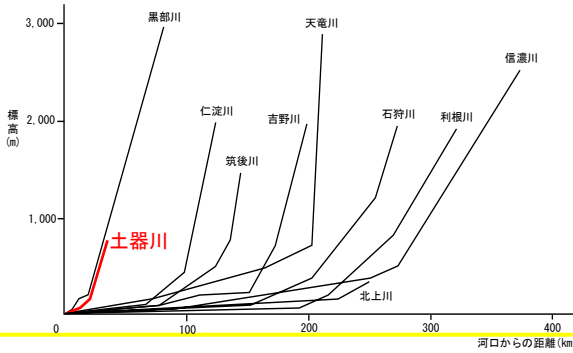
## 工事実施基本計画

対象降雨量 : 325mm/日 (1/100)  
 基本高水のピーク流量 : 1,700m<sup>3</sup>/s (祓川橋)  
 計画高水流量 : 1,350m<sup>3</sup>/s (祓川橋)

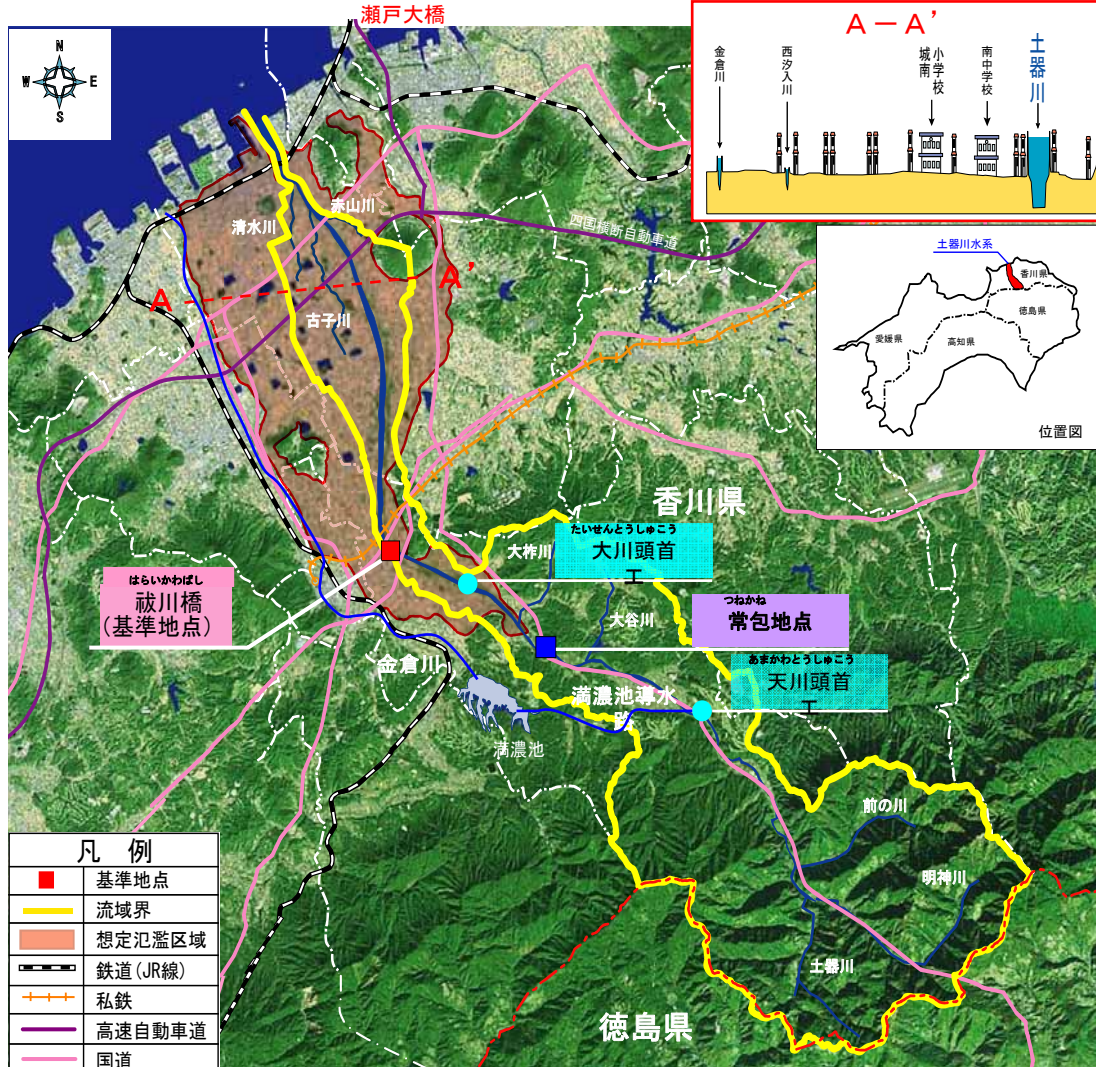
## 地形・河川特性

### ●全国有数の急流河川

常包地点より下流は扇状地となっており、下流部で河川勾配が1/200程度であり、有数の急流河川



- 常包地点より下流は扇状地となっており、下流部で河川勾配が1/200程度の有数の急流河川である。一度氾濫すると拡散型氾濫となり、人口・資産が集中する香川県第二の都市丸亀市街地全域に被害が及ぶ
- 年平均降水量が全国平均約1,700mmに対して、土器川流域では約1,200mmと少ない。中流部では年平均200日程度瀬切れが発生している。このため、満濃池をはじめ多くのため池が設けられるとともに、伏流水を取水する出水など、地域特性に応じた取水形態が発達
- 高水敷は、運動公園・親水公園等として利用が盛んであり、年間を通じて多くの人々の憩いの場となっている



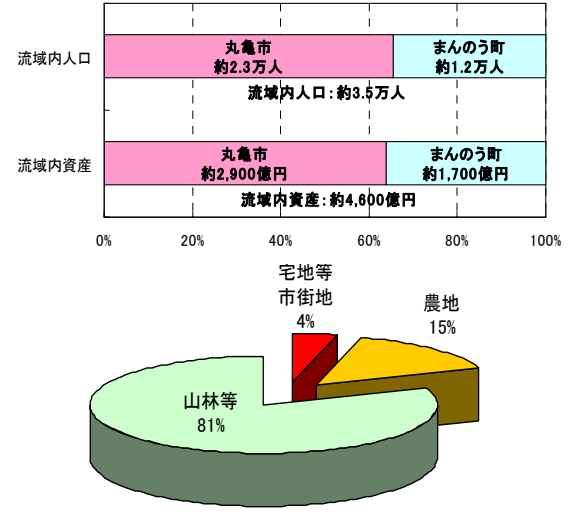
## 治水対策

- 中小河川改修の着手 (昭和25年) 以降、下流部から上流部へ順次、堤防の新設・拡築を実施
- 昭和30~40年代には、河床安定を目的に床止工を設置
- 中小洪水でも頻発する河岸・堤防の洗掘・侵食被害を復旧



## 土地利用状況

### ●流域人口及び資産の約65%が下流の丸亀



## 主な洪水被害



## 河川環境の特徴

